

要旨

1. はじめに

青年海外協力隊（以下：協力隊）は、技術移転を目的としている日本の政府開発援助の一環として独立行政法人国際協力機構が実施するボランティア事業の一つである。開発途上国の経済的・社会的発展への貢献を主とする海外ボランティアではあるが、協力隊に参加する協力隊員たちは、個人の成長に重きを置いている人たちが多くいる。本研究の目的は、協力隊の活動経験によって得られた人間的成長とは具体的にはどのようなものなののかを明らかにし、そのプロセスと影響要因を分析することである。

2. 方法

2017年12月から2018年3月に帰国後の協力隊員14名を対象として、半構造化インタビュー調査を実施した。用いた分析方法は、M-GTAである。分析テーマを「協力隊員が協力隊の活動を経験することによる人間的成長のプロセス」、分析焦点者を「20代に教育系のボランティア活動を終え、帰国後の協力隊員」とした。

3. 結果

分析の結果、4のコアカテゴリーと29のカテゴリー、50のサブカテゴリー、125の概念が生成された。

「協力隊員が協力隊の活動を経験することによる人間的成長のプロセス」は、まず『多様性との接触や活動における様々な困難との直面』を経験し、その中で『差異の認知と見識の変革』を行い、『多様性の享受と自己・他者理解の深化』を果たすことで成長し、その上で『活動経験を糧にした自己の再構築』が行われていた。また、『差異の認知と見識の変革』のステージにおいて【協力隊の活動環境と協力隊の同期からの刺激】【協力隊員の気質】【活動先の同僚との関係性の構築と人的環境の変化】【周囲の存在による支え】【協力隊として活動することによる時間の余裕】が成長のプロセスに影響を及ぼしていた。

4. 結論

本研究では、質的研究方法を用い、協力隊員が協力隊の活動経験によって遂げる人間的成長を明らかにし、そのプロセスと影響要因を明らかにすることができた。協力隊員が成長を果たすには、積極的な周囲への働きかけの中で、周囲の存在に支えられながら自身の存在・活動の意義を見出すこと、赴任した国の文化・価値観を多様な視点で捉えることの重要性が示唆された。本研究の結果は、協力隊員14名の限定されたものであり、検討事項も多く残されている。

キーワード： 青年海外協力隊 人間的成長 質的研究 活動の内容の再設定と肯定的再解釈